



近所に異臭が立ちこめたり、破れた袋から汚水が流れ出したりして、とても不快な状況を招くこととなります。果てはごみの焼却効率を低下させる原因にも。

ごみのツユを汚いと思わない人はいないでしょう。だからこそ、自分のごみのせいでほかの人に迷惑をかけるのは恥ずかしいことなのだ、と肝に銘じておいて欲しいのです。

### 燃やせるごみ用に

#### 半透明の買い物袋を

#### 使いたいな

「燃やせるごみ用の袋と半透明の買い物袋はほとんど同じものように思われます。どうして使えないの？」。だれもが一度は疑問に思ったこと、あるんじゃないでしょうか。

燃やせるごみの指定袋には、焼却処理する際に高温が発生するのを防ぎ、焼却炉を保護するために炭酸カルシウムが配合されています。これが買い物袋との大きな違いです。

また、買い物袋を使用すると、ごみ袋が小さくなって個数が増え、収集効率が低下する恐れがあるのです。

何よりも、統一規格のごみ袋を使用することは、「ごみの出しかたのルールをみんなが一緒に守る」という良識の形成に大きく役立つのではないのでしょうか。何の袋を使ってもいい、となるとルールに対する意識が一人ひとりマチマチになり、いきおい、「どうでもいいや」という考え方になりがち、そんな気はしませんか。

ごみは、一時預かり所へ出してしまいさえすれば、すべてかたづけたいと思われがちです。しかし、ごみは収集されるまでは自分のものなのです。

分別も生ごみの水切りも「面倒」の一言では済まされません。ごみ一時預かり所は、責任の捨て場所ではないのです。一人ひとりにごみの行く末までを考えて欲しいものです。ルールを軽視する無責任な人が一人でもいれば、頑張ってるルールを守っているかたの努力が無に帰します。一人ひとりの心配りは小さなこと。でも、それがまとまれば、地球の運命さえ左右する力を発揮できるのです。

## 第2部

### 『リサイクルする』



### リサイクルが地球規模で

#### 注目されているわけ

新聞紙、雑誌、ビン類、アルミ缶やスチール缶などは、燃やせるごみ・燃やせないごみとして出せばそれまでです。しかしそれらを資源ごみとしてきちんと分別して出せば、再び資源として活用することができるようになります。このように、資源または物を再利用することを「リサイクル」といいます。

私たちは、石油や森林資源などからできた